

平成 28 年度第 1 回うきは市総合教育会議 概要 平成 28 年 6 月 15 日(水)14:00~16:00

◆委員

市長 高木 典雄
教育委員会 西見 修一
教育委員会 麻生 秀喜
教育委員会 處 愛美
教育委員会 内山 勝之
教育委員会 家永 由里子

◆要綱第 4 条による出席者

サンピットバリューうきは店代表取締役社長 久次 辰巳さん
福岡県立浮羽工業高等学校音楽講師 高山 多恵子さん
福岡県立浮羽究真館高等学校校長 平位 秀敏さん

◆事務局 企画財政課、学校教育課

◆市長あいさつ

昨年度は、初年度であり、3回の会合で、教育大綱を策定いたしました。今年度は、それを具現化する重要な年であります。今回は、教育熱心なサンピットの久次社長さん、浮羽工業高校の音楽講師でリトミック教育を進めている高山先生、浮羽究真館高校の平位校長先生におかれましては、この会議の話を聞いていただき、高校の立場でご意見を賜れたらと思っております。地方創生推進交付金では、当市は教育を取り上げていて、採択されれば、教育と文化の独自性を追求していきたいと考えているところです。

◆議題「学力向上の取り組みについて」

●市長:

教育大綱では、1つ「社会を生き抜く力」、2つ「学力向上」、3つ「うきはならではの特色ある教育」、4つ「すべての市民が生涯学習の推進」というテーマを掲げています。今回は、学力向上の取り組みについて、まず、サンピットの久次社長さんにお話をうかがいたいと存じます。

■サンピット塾の取り組みについて:

2年前に塾を開きました。それは、従業員の福利厚生の一環であり、従業員の悩み、子どもの志望校相談への対応からです。塾経験のある浅野長実さんに協力してもらい、1年目6名、2年目8名の成績を伸ばし、全員第一志望校に入れました。私は、スーパーを経営し、食育を推進し、「早寝、早起き、朝ごはん」も学力向上につながると考えています。現在、市観光協会会長、市ルネッサンス戦略推進委員等に就き、移住者増のネックが、学力向上にあると考えるようになりました。藻谷浩介先生の講演でも、地域への愛着がこれからを左右すると言われていましたが、地域と教育機関が連携することが大事です。リクルートの経験から、教育機関の経営がどうあるべきか、地域の課題:教育、食育にどう取り組むべきか、従業員の浅野さんから学力向上の提案をさせていきたいと思えます。

■サンピット塾の経験を通して、学力向上への取り組みの提案

サンピット塾を開き、全員を第一志望校に入れることができました。私の塾の参加者は、問題を抱えたり実にさまざまです。この塾は、少人数だからできる、スタッフも七転八倒しました、しかし、大きく学力を向上させることができました。問題意識が3点あり、1つは、少子高齢化(うきは市も人口減少で消滅入り寸前)で教育は深刻になっています。2つ目は、人口と学力が相関関係にあるということです。全国学力テストでどこが高い、低いは容易にわかります。できるだけ高い所に子どもを入れさせ

たいというのは親心です。新宮町は、平成 22 年から取り組み、24 年から学力が上昇するとともに、比例して、人口も増えています。小郡市も同じです。3 つ目は、学力向上はまちの存亡がかかった問題であり、公的教育の向上が大事だということです。

教える側のモチベーションひとつで、同じルーティンをして子どもへの反応が違います。教える側のこれをぜひ伝えたいという気持ちは、教える側に知的な好奇心がないと、子どもに伝わりません。スーパーも生き残りの時代を迎え、昔からの同じルーティンという店はずぶれいくでしょう。これをわかってほしい、熱意がないと生き残れません。教育も同じで、教える側の熱意があるか・・・現状では、先生はたいへん疲れていると思います。ここに、行政の役割、責任領域があるのではないのでしょうか。不素行、不登校でも、塾では勉強も宿題もします。おもしろさを伝えることが大事で、簡単ではありませんが、やれば実現できます。資料 P2 の 2 番目に、秋田県と福井県がありますが、秋田は行政の努力で、教師の授業力向上に力を入れています。学校が先生を選んで研修させたり、授業の様変わり効果が出ています。行政の働きかけしだい(政策しだい)ではないのでしょうか。福岡県の昨年の学力評価をみると、うきは市は低い状態で、10 点もの差があります。資料 3 の新宮町では、全国の平均以上で、10 点以上の差があります。コーディネーターを設置したり、現場教員研修を年 39 回にしたり工夫されています。小郡市も、授業充実の取り組み、授業力向上検討委員会等を行っています。

教育現場は、いろいろな問題がある中、授業力向上が後回しになりがちだと思います。毎回授業で喜ばせるには相当な準備がいります。学校現場をわかり、行政が関わるべき課題がここにあると思います。授業力向上の勉強会や研究会をやっていたり、糸島市は九州大学の先生を呼んだりしています。現場の授業研究に突っ込むのに便利な例として、リクルート・スタディアプリ(980 円/月)があり、インターネット動画で、一流の講師が説明し、いろいろな教科書にも対応していますし、1 ページに 30 分の解説をしています。わずかな経費で、授業改善が図れますし、時間を確保するシステムづくりにも役立ちます。◆子どもたちの意見: どうして漢字をこんなにやらなければならないの?。B4 版 120 ページ、1 ページ 30 分だと、2 時間×30 日もかかってしまう。採点は、漢字四点ぐらいなのに。→有用性が子どもたちに伝わらないと、ぞんざいな対応しかなくなり、意味をなさないと思います。どこまで現場に入り込むかは別として、子どもの声も反映できたらと思います。◆子どもが過労?・・・部活動が月に 1~2 回しか休めない。文科省は週に 1~2 回休みなさいと言っているのに。コーヒーを飲まないで勉強できないという子どもたち。疲れ切っています。教員と外部講師で部活動ですが、外部講師は教育者ではないわけで、いろいろな批判の声も聞こえてくる。これを問題にすると、また、教員の負担が増えてしまっただけです。せめて、週 2 回は休んでほしい。

●市長

(1) 国勢調査で、新宮町は、全国一、人口増加率が高かったです。人口と学力の関係もあるというご指摘も当てはまりそうです。(2) 子どもにとって、なぜ勉強するのか、その動議付けの 1 つに、知的刺激を与えることが大事だということですね。(3) クラブ活動のあり方は、ショッキングに思いました。教師はあまりにも忙しすぎる→行政の責任で、研修できる環境づくり、知的刺激を与える時間づくり、クラブへ費やす時間・負担を下げるのが大事だという指摘ですね。

●「うきは市は、昔から学力が低かったのですか。」

→全国学力テストは、H19 からスタート。H21 は、中学校平均を超えていた。H25 は、小学校平均を超えていた。H26~H27 ごろが、低くなっている。相対的に下がってきている。

●先生も忙しい。負担を減らしてもらいたい。保護者からどんな意見が上がってきていますか→(サンピット) 日常的には、保護者と接しませんが、「いい公立高校に行かせたい」「この教科の先生が悪い時は、学年全体の教科成績がみな悪い」

→先生もがんばっていると思うが、教え方のうまい人、逆に、なかなか生徒に通じない人もいる。行政が関わっていくことが大事でしょう。

●小学校のPTA会長だったころ、先生方をお願いしたことは「昔は、そこに立つだけで人間的な魅力が伝わる人がいた。今はそうではないようです。それは、先生は忙しすぎる、人間的魅力や知的刺激を養う時間やゆとりがない。だから、PTAは、先生方のゆとりができるお手伝いをします。」。部活動、日々の仕事(教育現場)、子どもの現状、芸術・文化→心を切り替えて、いろいろなものに触れることが大事だと思います。今度の夏休みには、4歳の孫と、国立科学博物館に行こうと思います。小さいころから、知的好奇心、科学のおもしろさ、文化芸術の楽しさを伝えたいと思います。

●北筑後管内の全ての学校に赴任しました。小郡市からうきは市に来て、学力の差に驚きました。うきは市の中学校は、半分の点数しかありませんでした。小郡市は、最初と最後にオリエンテーションをきちんとやります。また、4年連続で、中1(数学)を担当しましたが、県の平均に及ばなかった経験があります。教員の研修制度は、今の方が進んでいます。初年度研修も、10日→90日になっています。授業がどうあるべきか、成果のあった授業の研究もやってきたが、教師のモチベーションを高めることはかなり難しい。授業を改善するのはたいへんです。語弊がないようにお聞きいただくと、教科書どおりにしたら、差がでます。教科書の扱い方が大事で、文章さえ読めない例もあります。小郡のある中学校は学力が断トツ1位、教え方が良かったとは思いません。どちらかというと、恵まれた家庭で、親が教育熱心で、子どもにも話をしても通じるという中学校です。当市の中学校には残念ながら、通じません。子どもに聞くと、高校に行かなくても、親が農業を教えてくれると言います。教員のモチベーションをあげることはとても大事です。しかしながら、学校文化・組織文化を変えることは、並大抵ではできないことです。

●若い教師が増えています。時間外の研究費も使っています。浮羽中学校では、1年生を私立高校に行かせて、3年後の姿を見せる体験入学に取り組んでいる(従来の中3を中1へ早くした)。少しでも、学校文化をかえる刺激となるように。学力向上委員会では、先生が伸びてほしいという願いから取り組んでいます。生徒の学習習慣が一番の課題です。家庭と学校の両立。部活動は、課題としてとらえています。部活動は生徒数減少で存続の危機、保護者の願い、熱心な教員、外部指導者のいい意味での活用等、先生にもっと授業に打ち込む環境づくりをしなければならない。

■工業高校は、モノづくり→人づくりにつながるが、普通科高校の場合は、体験活動で地域に貢献できる活動をしながら人を育てる流れを作っています。学力の差が激しく、定員割れもしている。私立の学校は、魅力あるやる気のある先生を確保しながら、公立との差別化に一生懸命努力しています。公立学校は予算の制限など、広報活動や魅力も私立とは違います。生徒が減れば、教員数も減り、部活動も手薄になったり、学校の管理さえ荒れてきてしまう。小・中学校でも人手が足りないだろうと思います。教師の拘束時間も、12時間程度はあるし、子どもは夜中まで勉強している時代です。

■市内中学校で、出前講座で教えに言って、子どもたちが聞く力がなく、落ち着いていない姿を見て、先生が授業を進める苦労が垣間見えたようです。家庭生活の影響があるように思いました。親がきちんとした教育をしていないのではないかと。

●市長

生活困窮者自立支援法の中で、負の連鎖を止めようとして取り組んでいます。子どもに責任があるわけではない。

■子どもの評価は、点数だけではないと思います。学力は見える部分で、生きていくために、生きがいや勉強する意欲、目標、手に職(技術)なども大事です。今の子は落ち着きがないようです。昔とは、家庭環境もずいぶん違い、三世同居は少なく、経験やコミュニケーション能力を養う時間が少ないので、キャリア教育でいかに目標を持たせるかが大事になってくると思います。

■リトミック教育で、幼児教育～小1・2に力を入れていただきたい

「10数年前から、他の地域を苦勞して指導してきました。うきは市は大人がしっかりしないと、子どもが遅れてきますよ。」と言ってきた。実は、うきはに指導にいくと、ホッとするんです。話はちゃんと聞くし、生きる力ももっていたから。しかし、今は、それも下がっています。小郡市の小5～6は、感性もいいし、聞く力もよく、すごく頭がいいと感じます。朝倉市も、小さいころ教えたことが進んでいるし、子どもが力を持って、思考力、表現力をもっていると思います。新宮はパレードコンクールを見て、新宮中学校は、高校顔負けの演技をしますよ。大きな声であいさつ、次に何をするか、自分たちでわかっているという感じです。そこで、よそに目を向けるのではなく、筑後はなぜ低いのか、なぜ新宮や北九州市は素晴らしいのか。6年生は考えや行動がほぼ固まってきたので、小学1年生で音楽が理解できる取り組みはないかということで、リトミック教育が大事だと思いました。当時、小郡と久留米は、保育園の民営化が進み、私立特有の必死で取り組んでいるころだった。その民営保育園に優秀な先生がいることに気付いた。ある経験として、ドレミの歌から、考えさせる・体をつかうリトミック教育を始めたら、学級崩壊が変わった(学校が変わった)。◆幼児教育～小1・2に、お金を入れた方がよいと思います。リトミックの特色は、思考力・判断力・記憶力・想像力・絵画や書道のイメージ・色・音。体験や感じることは、小さい時にやるべきです、お金をかけても。生きていく力や感じる力は、小さい時に育つ。実際は、先生は忙しすぎる、親のクレームが多いという現実。①リトミック教育のすすめ:音楽教育、オルガン活用、リズム教育、感性を伸ばす。②日常生活の中でリトミックをやれば、小さいころにいろいろな能力が備わり、小3では短時間で授業が進み、たいへん効率的。③若い先生には、広く浅くよりは、絶対負けないものを教える力を培ってもらいたいと思います。子どもにお金をかけないうきは市であってほしくはありません。若い人が育たないと、将来のうきは市はありません。小学校にあがってきて、先生が苦勞している今、文化がなくなったら、勉強もなくなるし、文化があれば、学力も高いと考えます。きれいな花、トライアングルのどこをたたけばいい音がでる、感性を育ててほしい。40人学級は多すぎます。子どもたちに伝えるには、もっと少人数がいいと思います。◆音楽の演奏は、左脳(理数系)が働き、見る・聞く・感じるは右脳が働きます。10歳まで脳は発達します。◆リトミックの良さで、自分と違う人を認めていく効果があります。◆小郡市では、専科の先生がいます。

●娘は、仕事では、新宿伊勢丹でココイクをしています、リトミックは人気があると聞いています。

●昔は先生が悪いから、成績が低いとは思わなかった。今の子どもたちは、対応力がない。ある学校では、たしかに教え方の苦手な先生がいたが、子どもたちが賢く、先生に頼らず、自分達で学級活動を進めて、学年一の成績を残した例もあります。田舎は、なぜか子どもが幼すぎます。

●味覚、性格も10歳ごろまでで感性するといいます。マクドナルドの戦略も、おもちゃで子どもをひきつけて、味覚を味あわせ、大人になっても食べてもらえるということです。低学年の時に、体と心に覚えさせることが大事です。中学生をいかに変えるか→ガラッとかえるべきです。性格はバラバラ、生徒と先生の関係、数学等のレベル別クラスとか。

→公平・公正があって、公立ではできない面もあります。

→生徒がもっているもの(思考力・表現力等潜在能力)を、引っ張りだせたかが重要です。いかずも殺す

も先生下さい。

●娘には、幼稚園から小3まで、楽譜が読めるように育てた。美術館へもよく連れて行った。演劇→仕事→パートナーとうまく繋がってきているのかなと感じています。先生が大事だし、親が何かしら刺激がないと変れないのではないかと感じています。親の家庭環境を見直さなければならない。公平性も大事、個性も大事。

●市長

劇作家の平田オリザさんが当市で講演されました。人の格差、地域の格差、そして、文化芸術の格差が問題である。本物を見ないと、格差が広がる。大都市との文化の格差が広がってしまう。

●小さいころは大事です。10歳くらいまでに、公正性、責任性が育つといわれる。

■退職した先生は低学年プロジェクトに活用できませんか。

→定数欠といって、退職者の先生がいないのが現状。補充は、他の地域まで探しています。

●習熟度別はあたりまえになり、先生をどう変えるのか(従来やっていない指導法)、幼稚園・小・中学校の先生はがんばっているし、皆忙しい。

→音楽と体育は昔は多かったが、今は、週1回に減った。文化祭を残してカバーしている状況。

→伸びる子を鍛えていくことが大切。そして、世界で活躍できる人を育てたいです。

■東京で美容室を開業している友達は、「学校時代に、教室に生花が飾ってあった。生の花がきれい。感性が違う。」と今でも豪語していますよ。また、「賢い子に育てる究極のコツ」という本がありますが、脳医学の本で、幼少時代に音楽をすることの効果も書かれています。これまでいろいろな課題が出されましたが、どう解決していくのか、何かを削り、何かを増やす、例えば、今から3年後には切りますとか。お金がないけれど、知恵をしぼって、工夫はもっとあると思います。教育大綱のKPIで、どこに力を入れていくのかも大事だと思います。不登校の子らがサンピット塾へ来る、農業だけでは食べていけない、基礎学力は最低必要など。

■サンピット塾に来る子は、一ヶ月間反応がないのですが、通じ合うのが一番たいへんです。教える側も、自分をさらけだして、ぶつかっていくことが大事です。たまには、iPS細胞とか、ヒッグスとは何か、新しいことも取り入れています。壁を乗り越え、打ちとけて、やっと勉強に入っていくという流れです。結論的に、少なくとも、平均はできないわけではなく、学力が必要。やった結果が出た方がよいと思います。

■平均が全国レベルになればよいと思います。若い夫婦がどこに住もうとするのか。過疎化にならないためにも、住みよい子育て支援、安心して子どもを産める、安心して学校にいけることが大切です。小さいころから環境を作っていくことが大事だと思いました。

●市長

失われた25年、アベノミクスでも、縮小社会になることは確実です。中国からはGDPで抜かれるし、日本人も自信喪失になっている感がある。教育は、国家10年の体系。文化の彩りのあるまちづくりのため、教育と文化の独自性が大事だと思います。文明(経済)と文化(芸術文化・非経済)で、司馬遼太郎は、弥生時代から文明が育ってきて、文芸復興(ルネッサンス)の後に、産業革命が起きた。文芸復興は階段の踊り場であり、骨太の精神で取り組んでいきたいと思っています。

◆先生が忙しすぎる。→研修の機会も、知的好奇心を養う時間もない→さらに、クラブ活動の負担。リトミック教育が重要なポイントであること。文化芸術では、オランダの一流文化との出会いを考えている。簡単に、人を増やすこともできない。費用対効果も考えなければならない。◆今日の協議をまとめて、事務局でたたき台を作っていく。

教育委員会へのお願い

- ①クラブ活動で子どもが疲れる(部活動ノ一稼働デーを、3日→7日へ変えたらどうか)
※部活休みを、勉強につかえばよいが、遊びに使う可能性もある。→国学院は、スポーツ優秀校だが、土日と朝練は中止、1日2時間でどう効率的に活動するかどうか。
- ②授業研究で、リクルート社スタディアプリを、宮崎指導主事に研究していただきたい。
※小・中・高校向けアプリがあり、高校生向けは20万人が利用している。
- ③漢字の課題学習が多すぎる。